

まえがき

本書は、2019 - 2021 年度にアジア経済研究所で実施した『中東における「障害と開発」』研究会の成果である。これまで研究所で実施してきた、「障害と開発」に関わる研究に本書は中東を新たな領域として付け加えることとなった。これまでの研究同様、障害については、「障害の医療・個人モデル」ではなく、「障害の社会モデル」の観点からまとめている。障害を医学の問題やリハビリテーションの問題にしてしまうのではなく、社会の発展のなかで障害の意味も変わることを重視した見方を取ろうとしたものである。このため、障害当事者団体の活動も重視している。本書では、域内のこの分野での取り組みの枠組みや障害法の現状のみでなく、イスラームというこの地域の宗教が社会生活に及ぼす影響の大きさから、イスラームにおける障害についての分析の章という類書にあまりない章も取り入れた。その後、レバノン、イラン、トルコ、イスラエルと行った国々についての分析を行い、最後に国際協力機構（JICA）における「障害と開発」分野の日本の国際協力についても紹介した。

研究会の実施にあたっては、執筆陣のほかにも Mika Mohamed abdelbaky seifelnasr 氏に在日障害当事者の立場で、研究会で取り上げられなかったエジプトの聴覚障害者の教育や環境についてお話いただいたほか、レバノン在住の障害当事者運動のリーダーで中東地域障害者団体連合会会長の Nawaf Kabbara 博士にオンラインで同地域の障害者運動についてお話いただいた。またパレスチナ地域についても、パレスチナこどものキャンペーンでの活動経験のある川越東^{はるみ}弥氏に同 NGO の活動とパレスチナ地域の障害者についてご報告いただいた。また本研究会の成果を元にした国際開発学会第 33 回全国大会の特別セッションでは、長沢栄治東京大学名誉教授、戸田隆夫明治大学特別招聘教授に、それぞれ中東地域社会の代表的研究者、JICA にて「障害と開発」分野での取り組みを指揮されたお立場でコメントをいただいた。現地における調査や研究会開催の際には、多くの当事者団体や手話通訳の方々にお世話になった。この場をお借りして、すべての関係各位に感謝申し上げたい。本書が、日本における「障害と開発」分野の広がり、中東の地域研究の障害包摂に貢献できることを最後に希求するものである。

2023 年 2 月 森 壮也（編者）